

平成23年12月期 決算説明資料

Clean, Health, Safety



 **興研株式会社**

平成23年12月期 決算概要

営業の経過及び成果

当事業年度におけるわが国経済は、平成23年3月に発生した東日本大震災によって、企業活動に大きな影響を受けました。その後、サプライチェーンの復旧により生産や輸出に回復の兆しが見られましたが、欧州財政金融危機に端を発する世界経済の減速懸念や円高の長期化等により、景気の先行きは不透明な状況で推移しました。

そのような状況の中で当社は、震災、原発事故対策用マスクの急激な需要拡大に対して、全社を挙げて最大限の供給に努めました。その結果、売上高88億79百万円（前事業年度比20.7%増）、営業利益11億66百万円（前事業年度比83.5%増）、経常利益11億12百万円（前事業年度比108.8%増）、当期純利益5億53百万円（前事業年度比31.4%増）といずれも過去最高額を更新いたしました。

セグメント別の業績は以下の通りであります。

（マスク関連事業）

震災や電力供給の制約によって国内の生産活動は低下し、産業用マスクの受注減が見られた一方で、震災・原発事故対策用マスクの販売は約15億円に達し、売上高は80億70百万円（前事業年度比18.2%増）となりました。

（その他事業／環境関連事業等を含む）

前事業年度に比べ医療施設向けホルムアルデヒド対策用換気装置の販売は減少したものの、全自動内視鏡洗浄消毒装置等の販売が伸び、売上高は8億8百万円（前事業年度比52.4%増）となりました。

業績の概要

Clean, Health, Safety

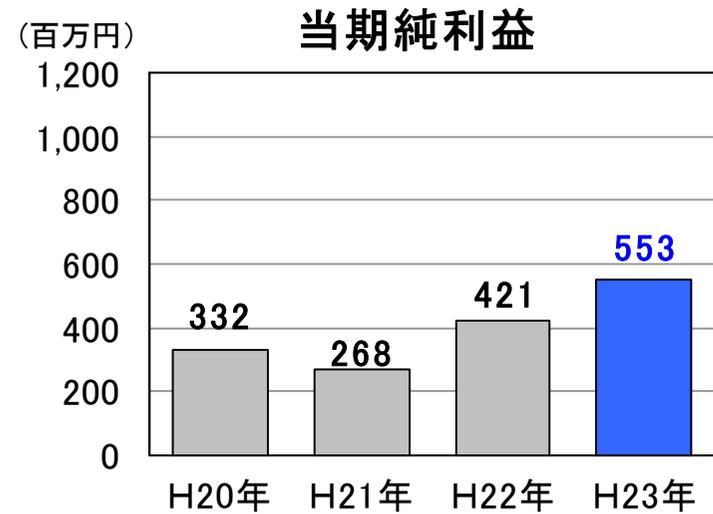
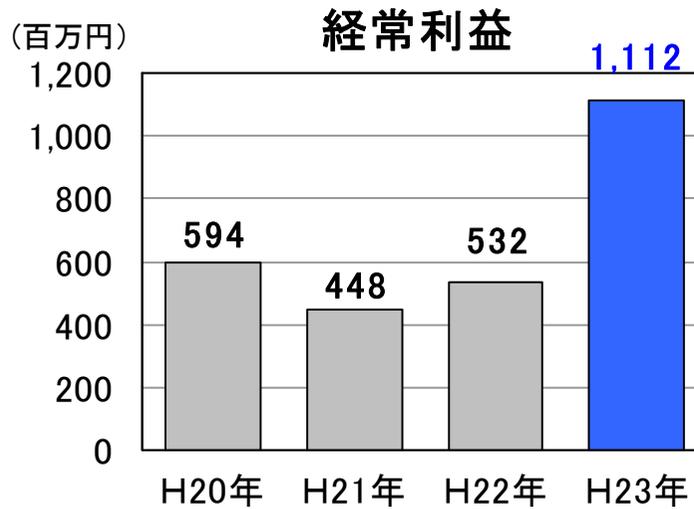
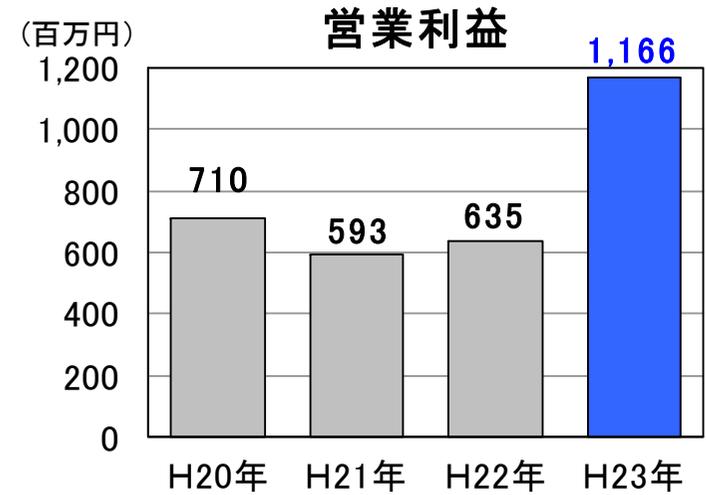
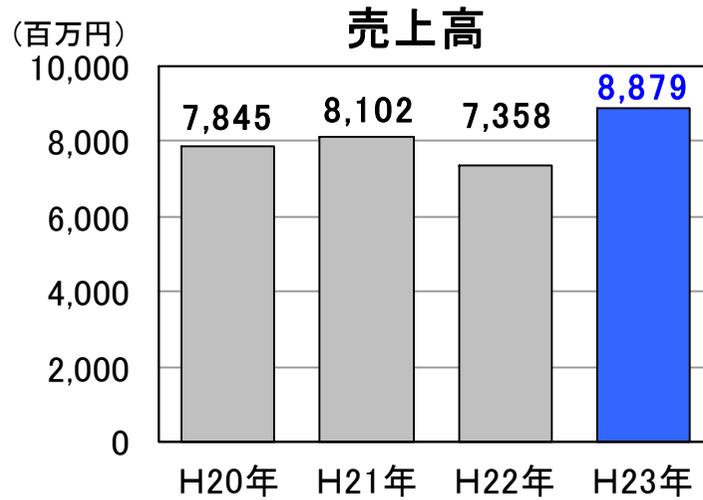
(単位:百万円/百万円未満の端数切り捨て)

	H22年12月期		H23年12月期		増減
	金額	比率(%)	金額	比率(%)	
売上高	7,358	100.0	8,879	100.0	1,520
売上総利益	3,272	44.5	4,206	47.4	934
営業利益	635	8.6	1,166	13.1	530
経常利益	532	7.2	1,112	12.5	579
当期純利益	421	5.7	553	6.2	132
1株当たり当期純利益(円)	83.31	—	109.46	—	26.15
各 期 年 度 末	総資産	15,563	16,262	699	
	(年間新規設備投資額)	(223)	(782)	(559)	
	借入金	6,119	5,414	△705	
	純資産	8,019	8,466	446	
	自己資本比率(%)	51.2	51.7	0.5ポイント	
	1株当たり純資産(円)	1,576.93	1,663.78	86.85	

売上高・利益の推移

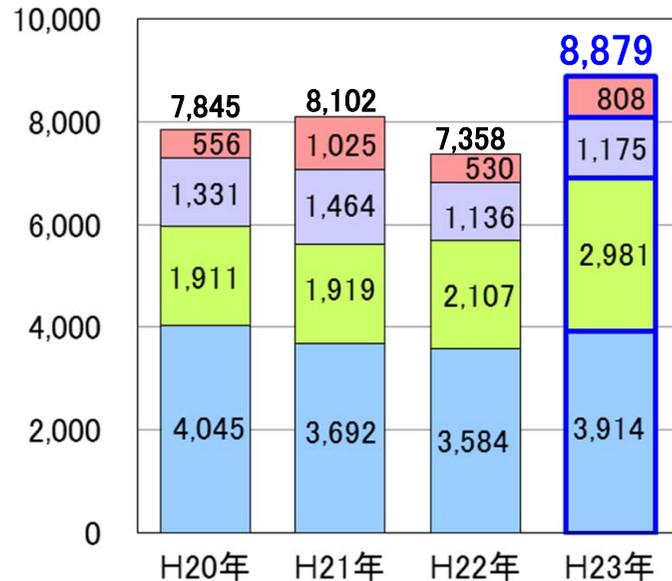
(百万円未満の端数切り捨て)

Clean, Health, Safety



セグメント別売上高の推移 (単位:百万円/百万円未満の端数切り捨て)

(百万円)



平成23年12月期のセグメント別の状況	
マスク関連事業 (■防じんマスク、■防毒マスク、■マスク関連その他製品)	
震災や電力供給の制約によって国内の生産活動は低下し、産業用マスクの受注減が見られましたが、震災・原発事故対策用マスクの販売が大きく伸びました。	
■ その他事業/環境関連事業等を含む	
医療施設向けホルムアルデヒド対策用プッシュプル型換気装置の販売減がありましたが、全自動内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍(かがみないし)」等の販売が伸びました。	

品目区分	平成20年		平成21年		平成22年		平成23年	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率
■ 防じんマスク	4,045	51.5%	3,692	45.5%	3,584	48.7%	3,914	44.1%
■ 防毒マスク	1,911	24.4%	1,919	23.7%	2,107	28.7%	2,981	33.6%
■ マスク関連その他製品	1,331	17.0%	1,464	18.1%	1,136	15.4%	1,175	13.2%
マスク関連事業計	7,289	92.9%	7,076	87.3%	6,828	92.8%	8,070	90.9%
■ その他事業/環境関連事業等を含む	556	7.1%	1,025	12.7%	530	7.2%	808	9.1%
合計	7,845	100.0%	8,102	100.0%	7,358	100.0%	8,879	100.0%

トピックス

◇東日本大震災復興の支援活動を実施

【寄付・寄贈】

当社は、被災者の支援及び被災地の復旧・復興活動にお役立ていただくため、震災直後に日本赤十字社を通じ2千万円の義援金の寄付と、当社製使い捨て式防じんマスクハイラックシリーズ約20万枚の寄贈を行いました。

【呼吸保護の啓発活動】

がれきに含まれる石綿、ダイオキシン等の危険性やフィット性の高いマスクの必要性を啓発するため、各自治体に保護具アドバイザーを派遣し、マスク講習を実施いたしました。

〈当社製使い捨て式防じんマスク「ハイラック」を装着しての講習会〉

ボランティアセンターで実施したフィットテスト講習会の参加者の方々は、「ハイラック」のフィット性の高さに驚かれ、またサージカルマスクは漏れが極端に大きく、高性能マスクとされるN95レスピレーターやDS2マスクも種類によっては、漏れ率が大きくなることに関心を寄せておられました。「用途によるマスクの使い分けやフィットの重要性を知ることができて良かった」との声をいただきました。

このような活動に対し、各自治体、関係機関等から、感謝の言葉が多数寄せられています。



◇KOACHショールーム・テクニカルセンターを開設

オープンクリーンシステム「KOACH（コーチ）」とナノファイバーフィルタ「FERENA（フェリナ）」によるスーパークリーン環境を実感していただくため、東京、大阪、福岡にショールームを開設しました。各ショールームでは、フローアコーチ、オープンクリーンベンチ、連続コーチ、テーブルコーチ等が設置されており、それぞれの清浄度を体験することができます。

また、大型クリーンルームの展示と実証・実験のために埼玉県狭山市にスーパークリーンテクニカルセンターを開設しました。



東京ショールーム



大阪ショールーム



九州ショールーム



スーパークリーンテクニカルセンター

◇技術・IR説明会を開催

平成23年12月、株式会社大阪証券取引所がJASDAQ上場企業のIR支援として開催している「機関投資家・アナリスト向け技術IR説明会」に参加しました。

当日は、28社38名の機関投資家、アナリスト及び市場関係者にご出席いただき、当社の技術力に対する高いご評価と分かりやすい技術説明であったとのご感想もいただくなど、大変盛況な説明会になりました。

特許評価価値指標※	当社ランク	
	全上場企業 (約3,600社)	JASDAQ上場企業 (約1,000社)
YK値(競争力)	367位	8位
QK値(成長力)	22位	7位

※工藤一郎国際特許事務所が開発した指標
詳細については、同事務所のホームページをご覧ください。

研究開発

◇ブレスリンクブロワーマスク

安全性、経済性、実用性が高く評価されているブレスリンクブロワーマスクの呼吸感知精度と呼吸追従性能をさらに高めた“高・シンクロ機能”が、全てのBLシリーズに搭載されました。同機能による送風効率の向上が、フィルタやバッテリー消費のさらなる低減を実現します。

- ・「BL-701E」
福島第一原子力発電所の事故処理用として、放射性粉じんとヨウ化メチルガスに対応するブロワーマスクを開発し、東京電力様に納入いたしました。
- ・「BL-200」シリーズ
伝声器付きのマスクです。ナノマテリアル、石綿、溶接等の各作業に対応可能な豊富なバリエーションを備えております。
- ・「BL-1005」
静電フィルタを使用する世界初のブロワーマスクです。溶接作業用としてロングセラーの防じんマスク1005型の利点を継承しています。



◇オープンクリーンシステム「KOACH」・ナノファイバーフィルタ「FERENA」

フルオープン型とルーム型のフルラインナップ化を行うとともに、ユニット化に成功したナノファイバーフィルタ「FERENA」を搭載することで、全「KOACH」のISOクラス1から3のスーパークリーン化を実現しました。

- ・テーブルコーチ
小さなクリーン空間を作る卓上型の「KOACH」で、手軽に持ち運んでの設置が可能です。
- ・フロアーコーチEx、Ez
広いクリーン環境を求めて、トンネル形のガイドスクリーンを設置したルーム型のフロアーコーチです。極めて短時間で夢のようなスーパークリーンを実現します。



平成24年12月期の業績予想

次期の見通し

Clean, Health, Safety

次期も厳しい経営環境が続くことが予想されますが、当社は復興に伴うマスク需要の対応とともに、電動ファン付き呼吸用保護具等の高付加価値製品によるシェア拡大と、将来的に需要拡大が期待できるクリーン、ヘルス分野への営業強化を図って参る所存であります。

なお、次期の業績予想は、前事業年度における震災・原発事故対策用マスクの需要急増の反動もあって、復興需要、環境及びクリーン事業の売上増で賄うものの若干減少し、売上高86億円（前事業年度比3.1%減）、営業利益8億円（前事業年度比31.4%減）、経常利益7億30百万円（前事業年度比34.4%減）、当期純利益4億円（前事業年度比27.7%減）となる見通しです。

区分	平成23年12月期 実績	平成24年12月期 予想
売上高	8,879	8,600
営業利益	1,166	800
経常利益	1,112	730
当期純利益	553	400
1株当たり当期純利益(円)	109.46	79.09

(単位:百万円/百万円未満の端数切り捨て)

セグメント別の見通しについては以下の通りです。

(マスク関連事業)

震災・原発事故対策用マスクにつきましては、既に受注済みの官公庁向けの緊急対応用に加え、震災の復旧工事や除染作業用の需要も見込めるものの、前年実績までは至らないと予想しております。

電動ファン付き呼吸用保護具は、今年に予定されている国家検定制度への移行により、溶接作業での使用や市場の拡大が見込まれます。当社は、呼吸を感知してファンで送風するマスクを世界で初めて開発したメーカーとして、さらなる普及を図って参ります。

現在当社は、新型インフルエンザ等の感染症の将来の拡大に備える活動を続けおり、感染対策用マスク「ハイラック」シリーズについては、その高いフィット性が評価され、感染対策への取り組みが進む保健所や感染症指定医療機関での採用が広がっています。

当社は、デュポン㈱、アゼアス㈱との3社間で共同事業に関する覚書を締結しました。今後、国際的防護服ブランドであるデュポン社製タイベックと当社製マスクを融合させることで、緊急対応用、復旧作業用として、より安心、安全で利用しやすい製品の開発や安全の啓発活動に取り組んで参ります。

これら施策により、売上高は、76億円（前事業年度比5.8%減）となる見通しです。

(その他事業/環境関連事業等を含む)

当社はスーパークリーンが産業技術や研究開発のコモディティになることを目指し、スーパークリーンシステム「KOACH」の各種広告や展示会への出展を積極的に行っており、初出展した「フローコーチEz」と「テーブルコーチ」の1号機は、東京大学宇宙線研究所様から受注いたしました。今後も当社は、「KOACH」と「FERENA」の両技術を一層高めながら、広告での認知活動や展示会の活用を進め、加えてショールームの拡充を行うなど、クリーンルーム革命を巻き起こすべく、クリーン事業に果敢に挑戦して参ります。

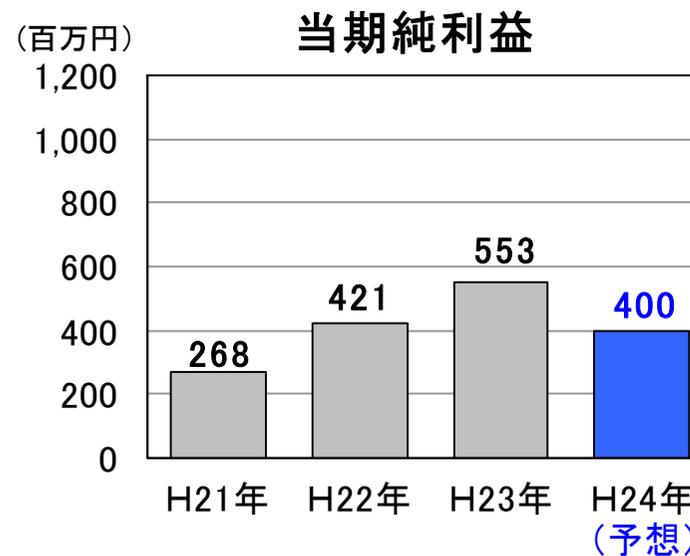
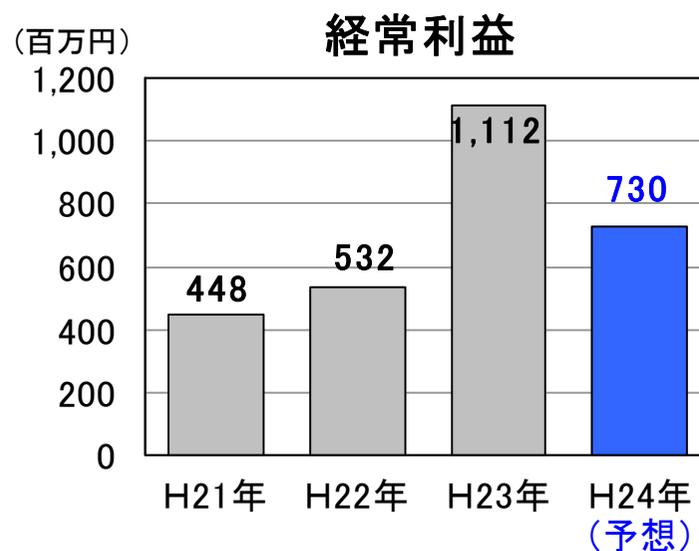
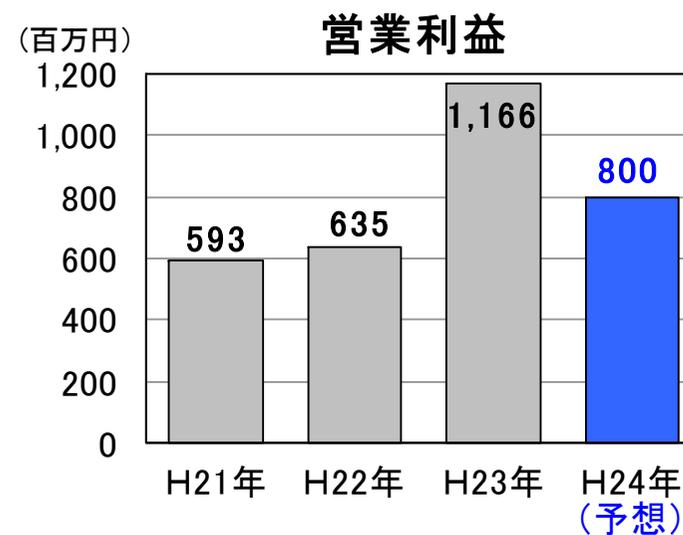
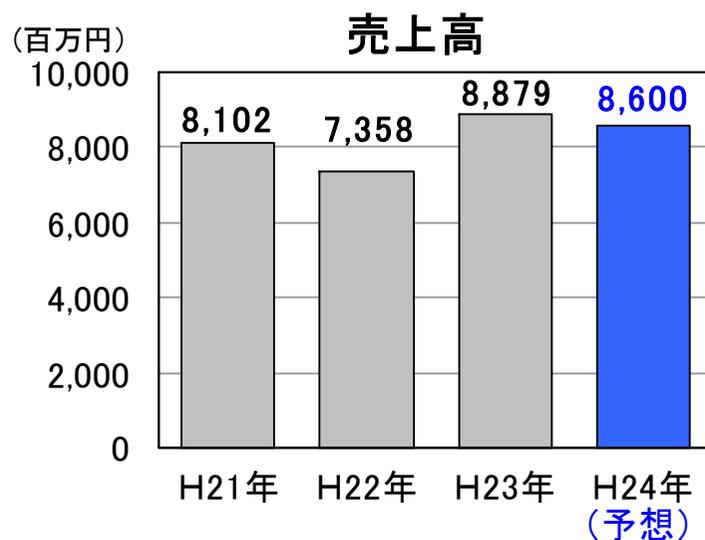
全自動内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍」については、導入した医療機関から高い評価をいただいております、引き続き「鏡内侍」ファンの拡大に努めて参ります。

これら施策により、売上高は、10億円（前事業年度比23.7%増）となる見通しです。

業績予想

(百万円未満の端数切り捨て)

Clean, Health, Safety



本資料に記載されている業績予想数値等の将来に関する記述は、「平成23年12月期 決算短信〔日本基準〕（非連結）」発表日(平成24年2月6日)現在において、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ先

興研株式会社
広報・IR室

TEL 03-5276-1932
FAX 03-5276-6530
Eメール ir@koken-ltd.co.jp
ホームページ <http://www.koken-ltd.co.jp>